

2024年第3回 Japan Council 理事会議事録(案)

日 時：2024年12月20日(金)

場 所：機械振興会館6階 6-66、Zoom 併催

出席者：宮永 Chair、原崎 Vice Chair・SYWL2024 実行委員長、奥村 Secretary、樋口 Treasurer、五十嵐 札幌支部 Chair、村岡 仙台支部 Chair、湯川 信越支部 Chair、相澤 東京支部 Chair、佐田 東京支部 Vice Chair、植村 東京支部理事、Kawamoto 東京支部理事、佐藤 名古屋支部 Chair、梶川 関西支部 Chair、井上 関西支部 Vice Chair、丹治 四国支部 Chair、増田 広島支部 Chair、早見 福岡支部 Secretary、高村 COC Chair、小澤 SAC Chair、日高 AC Vice Chair、釣谷 IPC Vice Chair、大野 ARC Chair、廣岡 MD Coordinator、塩見 YP Coordinator、津田 LM Coordinator、鈴木 Past JC EA Coordinator、井上 WIE Coordinator、橋本 Past Chair/R10 Director Elect、重松 NC Chair・Past Secretary、前原 Past Treasurer、本田 HC Secretary、久本 LRSC 理事、福田 IEEE Past President、杉江 IEEE Admission and Advancement (A&A) Committee Member、西原 IEEE Region 10 Past Director、矢野 2023 R10 HTAC Chair

オブザーバー(次期理事)：末松次期 Chair、滝嶋次期 Vice Chair/HTC2025 運営委員会・実行委員長、野中次期 WIE Chair、密山次期四国支部 Chair、亀田次期広島 Chair、末次次期福岡支部 Chair、佐藤次期 SAC Chair、森田次期 YP Chair、石井次期 Promotion Ad-Hoc Committee Chair

事務局：加藤事務局員、福岡事務局員

幹事会社：金、木村

(合計 53 名 現地参加：29 名 オンライン参加：24 名)

【議題】

1. 前回理事会議事録の確認(審議)
2. 2025-2026 年理事会・委員会メンバー(審議)
3. 2024 年 Japan Council 活動報告
4. 2024 年 Japan Council 決算予想
5. 常設委員会 2024 年活動報告、2025 年活動計画案および予算案
 - 5-1 Chapter Operations Committee
 - 5-2 Student Activities Committee
 - 5-3 Awards Committee
 - 5-4 Industry Promotion Committee
6. Ad-Hoc 委員会 2024 年活動報告、2025 年活動計画案および予算案

- 6-1 Long Range Strategy Committee
 - 6-2 History Committee
 - 6-3 Awards and Recognition Committee
 - 6-4 Fellow Elevation Supporting Committee
 - 6-5 Promotion Committee
 - 7. Coordinator 2024 年活動報告、2025 年活動計画案および予算案
 - 7-1 Membership Development
 - 7-2 Young Professionals
 - 7-3 Life Members
 - 7-4 Educational Activities
 - 7-5 Women in Engineering
 - 8. 各支部 2025 年活動計画および前回理事会以降の活動報告
 - 8-1 札幌支部
 - 8-2 仙台支部
 - 8-3 信越支部
 - 8-4 東京支部
 - 8-5 名古屋支部
 - 8-6 関西支部
 - 8-7 四国支部
 - 8-8 広島支部
 - 8-9 福岡支部
 - 9. 2025 年 Japan Council 活動計画（審議）
 - 10. 2025 年 Japan Council 予算（審議）
 - 11 その他
 - 11-1 VICS2025 関連（一部審議）
 - 11-2 SYWL2024 報告（一部審議）
 - 11-3 IEW2024 報告
 - 11-4 R10/11 分割後の課題について
 - 11-5 次期理事会への引継事項（案）
- [参考] メール審議報告

宮永 JC Chair より理事会開始の挨拶があった。

【議事】

1. 前回理事会議事録の確認【審議】

資料（1）

奥村 Secretary より前回理事会の議事録の説明があり承認された。

2. 2025-2026 年理事会・委員会メンバー（審議）

資料（2）

滝嶋次期 Vice Chair より以下の通り説明があった。

2023～2024 年までの理事会運営について現・次期役員で協議し、構成変更を行う。JC ARC は AC と連携することとし、JC 理事会では AC Chair が報告する。FESC は MD と連携することとし、JC 理事会では MD Coordinator が報告する。そして PC は MD と連携することとし、JC 理事会では MD Coordinator が報告する。また、IEEE の BoD Member、BoD Member 経験者、R10 の現在の Executive Committee メンバーは JC 理事会に毎回参加し、その他 IEEE 関係者には適宜情報共有をし、理事会やその他の委員会で重要案件として対応していくこととしたい。現状参加人数が延べ 46 名のところを 36 名となる。理事会構成メンバーについては、以上の流れを汲んだメンバー構成になっている。

四役の選定について重松 NC（Nomination Committee）Chair 下の通り説明があった。

今回は投票の結果 Chair は末松先生、Vice Chair は滝嶋先生に決定した。前回の理事会で JC の Bylaws が本部のものと呼応としていない点について議論があったが、LRSC 会議で来年 Ad-Hoc 委員会を立ち上げ、検討していくこととなるだろうという話があった。

審議の結果、資料に EA Coordinator 植村先生を追加し、このメンバーで理事会が承認されたことになった。

3. 2024 年 JC 活動報告

資料（3）

奥村 Secretary より以下の通り報告があった。

東京支部主催の IEW や R10 SYWL2024 を支援した。常設委員会の活動について、COC は JC の予算承認作業を東京支部に移した。2025 年以降も関西支部や他支部にも移管していく方針で進めていく。SAC については新たな SB が設立されて 39 ヶ所になった。マンガコンテストについてはこれからも継続していく。IPC は IEW を開催。MD 関連では、Senior 昇格者は昨年比 18 名増加。YP は支部連携を強化するイベントを開催。LMAG は LMAG 福岡が新設された。WIE は R10 SYWL 開催に協力した。

4. 2024 年 Japan Council 決算予想

資料（4）

樋口 Treasurer から以下の通り報告があった。

収入の中間会計報告をする。予算が為替の影響で増加した。夏にメール審議をして承認された SYWL の件を決算予想には反映している。SYWL 開催にあたり補助金を得たが、それが返金されるまでの間の立替分として JC から供出しているもの。返金される時期について、12 月の予定が 1 月末、遅くて 2 月末に延期される予定。収支としては支出過多だが、前年からの繰越金があるため、次年度繰越金が発生すると予想をしている。

5. 常設委員会 2024 年活動報告、2025 年活動計画案および予算案

(※順番を変更し報告)

5-2 Student Activities Committee

資料(5-2)

小澤 SAC Chair より以下の通り報告があった。

2024 年は千葉商科大学、九州大学、東海大学、千葉大学、東北工業大学の 5 か所の SB が立ち上がり、国内 SB の数は 39 となった。SYBLTW2024 を 8/29 に東京オリンピックセンターにて開催。出席者数は 50 名で学生は 43 名。12/16 に SB に対して引継ぎのお知らせをした。SBLTW2025 を R10 HTC2025 と同時開催を検討中である。SBLTW の C のマンガストーリーコンテストは、印刷したものを配布予定だったが、SYWL の開催テーマに沿わないとの理由で実施を見送り。予定していた予算は使用していない。SYLTW や HTC2024 に学生を派遣。今年は支部をまたいでの SB との共同活動に対し活動支援を行った。来年度は Chair が佐藤先生、Vice Chair が西宮先生、Secretary が筒井先生。R10 HTC2025 への学生派遣援助が例年と異なり、その分の予算を申請している。こちらは橋本先生のご協力で千葉商科大学の学生寮の使用を検討中。これが叶うと予算削減が実現する。

(※順番を変更し報告)

5-4 Industry Promotion Committee

資料(5-4)

釣谷 IPC Vice Chair より以下の通り報告があった。

2024 年は主に 5 つの活動を行った。まず、IEEE President の Tom 氏が SYWL に参加された際、幹事会社を含めた訪問企業リストを提示した。次に、VICS のスポンサー企業の募集のために、IPC 内に実行委員会を立ち上げた。さらに、MAW を今年度から IEW に名称変更し、東京支部で開催。来年度は関西での開催で計画中である。R10 HTC については、企業スポンサー募集計画について情報展開を開始した。最後に、社会人 IEEE メンバーの増員のため、博士を目指す人に対してアンケートを実施中である。4 月開催予定の VICS で、スポンサー企業確保のために Welcome Reception 及び VIP セレモニーの情報を展開している。既に何社かが参加予定。2025 年新役員は私が Chair、Vice Chair に住友電工の佐野さん、Secretary に東芝から石垣さん。予算について委員会開催のための委員の出張費、HTC、IEW の参加費等を計上している。

6. Ad-Hoc 委員会 2024 年活動報告、2025 年活動計画案および予算案

6-1 Long Range Strategy Committee

資料 (6-1)

原崎 Chair の代理で奥村 Secretary より以下の通り報告があった。

2024 年は国際会議誘致、Fellow 関連、高等教育関連、長期スケジュールと 4 本柱を重点課題に検討してきた。SYWL2024、IEW2024、HTC2025、VICS2025 等の進捗の情報共有をし、次期 LRSC メンバーに引き継いだ。Fellow 関連では、Webinar を開催し、高等教育で

は各 Section に問題意識や情報を共有した。R10 分割に向けて、女性会員増加の課題がある。後ほど、橋本先生より R11 の分割の課題について報告がある。

滝嶋次期 LRSC Chair より以下の通り 2025 年の活動の報告があった。

Region のリアライメントに向けて、JC としてはどのような対応が必要か、名目として残っている国際的活動など、改めて具体的な対応を検討していく。次に IPC での検討との連携ならびに別角度において、特に中長期的な観点で方向性や対策を検討する。若手研究員の活動支援では、YP の活動との連携を意識しつつ、キャリア創出の観点でのサポートに焦点を当てたい。そして、これらの検討結果のアクションプランを、中長期的な視点で予算の戦略的活用に反映していきたい。

6-2 History Committee

資料 (6-2)

本田 HC Secretary より以下の通り報告があった。

2025~2026 年は白川先生がアドバイザー、現在 Vice Chair の島村先生が Chair に就任。Vice Chair は空席。この体制で 2025~2026 年を進めていく。東京支部の体制に関し、昨年からアップデートされており、Vice Chair が喜々津さん、鈴木さんがアドバイザーになっている。10/11 に川崎にある、東芝の開発研究センターにて 2024 年の HC 委員会を開催し、HC の Milestone の申請状況について議論した。2025 年度も年 1 回の HC 委員会を予定しており、信越支部にて開催予定。今年度と同様に現地とオンライン開催を検討中。2025 年度の予算については、宿泊費・会場費・Milestone 贈呈式費用等を今年と同額を申請している。Milestone は申請中が 18 件、申請の検討中 9 件である。2024 年 10 月、11 月に 4 件の Milestone が受賞された。2025 年は既に 2 件の受賞が予定されている。

質疑応答では、2025~2026 年の体制について質問があり、本田 HC Secretary から、確認するとの回答があった。

6-4 Awards and Recognition Committee

資料 (6-4)

大野 ARC Chair より以下の通り報告があった。

IEEE Japan Council Outstanding Volunteer Award 2024 は 9 月末に 4 名からノミネートがあり、白川様、鈴木様の 2 名を選出。その後、理事会にてメール審議を行い、本日の表彰式を行う。2025 年は AC の Sub Committee として ARC の活動をしていく。Chair に津田先生、Vice Chair に小柴先生、Secretary に西宮先生。利益相反になるような選考委員会は無効であり、理事会の理事を減らした選考委員会の立ち上げが必要となる。ぜひ、今年で理事会を退任される方々、各支部から起こしの方に選考委員会に加わることを検討頂きたい。なお、2022 年 11 月以前に制定された Award については、MGA に登録されないため JC Outstanding Volunteer Award は MGA に登録していない。今後は登録できる体制に変えて行く必要があ

る。また、JC 感謝状と ARC には類似点があるため、効率化を図ることについて検討していく。予算は 5 名の授賞式の費用を計上している。

6-5 Promotion Committee

資料 (6-5)

大野 PC Chair より以下の通り報告があった。

SNS を使った、IEEE JC、各支部の活動の PR 活動をしてきた。農工大、東京電機大学の学生とともに活動している。2024 年の報告、X やインスタのフォロワーが大分伸びた。要因の 1 つはイベント等で配布される IEEE グッズを配る時にフォローを PR した。予算については、学生のための謝礼を計上している。2025 年は MD 傘下の Sub Committee として活動していく。中央大学の石井先生に Chair をお願いしている。引継ぎ会を対面で行いたく、予算を申請したい。また、Promotion Committee 案件なのか不明だが、2024 年の R10 SYWL の際、JC のロゴのリクエストがあったため、今後の検討事項として報告する。

11-1. VICS2025 関連 (一部審議)

相澤東京支部 Chair より以下の通り説明があった。

VICS のスポンサーを JC としても行いたい旨をこちらで提案したい。東京支部はスポンサーになることを決定した。スポンサー費用は東京支部、JC それぞれ折半したい。その際にロゴ提出が 1/15 までに必要となる。スポンサーになると 10 件の無料参加権がもらえる。Honors Ceremony というセレモニー会場でテーブルを 1 つ出せる。東大、MIT などの大学もスポンサーになっている。企業では三菱、AMD、ボストンダイナミクスなど。

JC が VICS2025 のスポンサーになること、ロゴを作ることが承認された。

7. Coordinator 2024 年活動報告、2025 年活動計画案および予算案

7-1 Membership Development

資料 (7-1)

廣岡 MD Coordinator より以下の通り報告があった。

2024 年は SM 昇格申請の支援、OU Analytics のデータを活用した会員獲得施策の強化を行った。その結果、SM 昇格者数は昨年より 18 名増加し、新規会員数も殆どの支部で前年を上回る実績を達成している。2025 年はこれらの取り組みに加え、PC および FESC との連携による会員 Retention 施策および会員獲得施策の強化、ならびに Fellow を含む会員資格の Elevation の奨励・促進に力を入れる。MDC 会議での話題を 3 つ。・OU Analytics を用いた各支部 Recruitment 数・Retention 率の推移。各 Section で Senior 昇格支援の取組強化活動が行われた成果とみている。Japan Medal について誤った情報がウェブ上に掲載されているケースが指摘されている。Senior 昇格が Awardのごとく紹介されるなど。支部の MDC にも注意喚起を行っている。テンプレートは英文・和文で用意しているので活用頂きたい。2025 年の Coordinator には林先生 (関西支部 MDC) が就任。

7-2 Young Professionals

(資料 7-2)

塩見 YP Coordinator より以下の通り報告があった。

去年から引き続き YP Study Lab を仙台 YP/関西 YP/東京 YP の協力のもと開催した。両イベントで各支部向けの旅費支援を行い、全 YP のメンバーを集結させることができた。YP 間でノウハウや情報共有を行う YP meet も両イベント前後に開催。Study Lab では博士の学生、博士をとった教員、博士をとった企業の人を招き、博士号がキャリア形成に与えた影響についてパネルディスカッション形式で議論するイベントを関西 YP、名古屋 YP で分担して開催した。45名の参加者。また、R10 の SAC WIE YP イベントに Chair が参加。2025～2026 年の Coordinator は現在名古屋 YP Chair の森田先生が就任される。YP オフィサー体制のヒアリングを行った結果も共有する。2025 年は Study Lab とキャリアラボを名古屋、札幌等で開催予定。その他、2024 年同様 MAW (IEW)、SYWL、SBLTW に YP メンバーを派遣予定。予算は例年通りの額を申請したい。

質疑応答では、信越支部における YP に設立検討についてコメントがあり、塩見 YP Coordinator から東京支部とのジョイントで立ち上げることを含めて検討する、との回答があった。

7-3 Life Members

(資料 7-3)

津田 LM Coordinator より以下の通り報告があった

2024 年は JC LMAG 会議を 3 回開催。そのうち 1 回は SYWL と時期を合わせて対面で開催した。福岡 LMAG が成立。MGA の LMC で力を入れている 1 つである Group Mentorship Initiative (GMI) が東京支部ではじめて実行された。2025 年については、2024 年同様、JC LMAG 会議を 3 回開催予定。そのうち 1 回は対面を予定。更に新設の LMAG 支援や、HTC に東京 LMAG の Track も入れていきたい。GMI を可能であれば、他支部でも実行していきたい。予算関連で GMI に関しては、MGA に予算申請も可能なので上手に使ってほしい。JC への予算申請は対面ミーティングのための旅費をお願いしたい。R10 LMC の中で、必要であれば HTC の支援をするつもりで予算確保しているので、いつでも相談してほしい。

質疑応答では、役員交代時に vTools に関連した基本的な点の引継ぎについてコメントがあり、佐藤次期 SAC Chair より、SAC で実施した vTools の講習動画の共有は可能であるとの発言があった。末松次期 JC Chair からは、vTools の使い方の引継ぎなどについて、良い方法を検討していくとの回答があった。

7-4 Educational Activities

(資料 7-4)

鈴木 Past JC EA coordinator より以下の通り報告があった。

2024 は Engineer Spotlight を 3 回主催した。これらは大越先生の専門領域を生かした人脈を生かして開催している。JC 理事会の前に支部間で情報共有会を年 2 回開催。青森の小学校での出張授業について、文部科学賞の HP に掲載された。SYWL Congress にも参加した。過去 3 年間の実績が評価され、2024 R10 Educational Activities Outstanding Group Award を JCEA グループとして受賞できた。Engineer Spotlight で社会人博士の会を開催したところ、アンケートの結果、企業の方々に大変好評だったのがきっかけとなり、EA と IPC で進めている。関西 EA Chair の田辺先生からの提案により、IEEE の教育教材について情報整理をし、活用しやすいようにした。2025 年の EA Coordinator には植村先生が就任予定。内容としてもこれまで通り。担当者リストは更新途中である。予算は例年通りとなる。

7-5 Women in Engineering

(資料 7-5)

井上 WIE Coordinator より以下の通り報告があった。

R10 の SYWL に私自身は台風で来られなかった。R10 の WIE メンバーになり、WIE のプログラム作成などの協力ができた。今年は札幌支部では女子学生を中心としたアイデアソンを立ち上げた。この活動を全国展開していきたい。最近開催したのは、関西支部のシンポジウム。東京・信越ジョイント支部のシンポジウムを 12/9、12/10 にはレッドカーペットセレモニーを開催予定。2025 年は各支部の連携を強化し、新規メンバー増加を目標としている。各支部に対して役員の派遣、女子学生の旅費支援など行う。2024 年は SYWL で学生の旅費支援をした。予算としてはマンガストーリーコンテストを準備していたが、開催されなかったため、その分の予算が余っている。2025 年はマンガストーリーコンテストを除いた例年の分と、アイデアソンイベントへの予算を申請している。

(※順番を変更し報告)

8-4 東京支部

(資料 8-4)

相澤東京支部 Chair より以下の通り報告があった。

全般的に活発に活動し、実り多い結果となった。理事会は年 4 回。機械振興会館以外で、東芝の新しい研究開発棟、LINE の会議室など、理事会の会場を変えて活発に活動した。この 2 年は月一で四役ミーティングを開催し、その場に各委員会の Chair をお招きし、理解を深めていった。新しい取り組みとして、IEW や SYWL など、四役中心で話を進めてまとめていった。それぞれの活動が自立して行われた。

(※順番を変更し報告)

8-7 四国支部

(資料 8-7)

丹治四国支部 Chair より以下の通り報告があった。

2024 年は、R10 SYWL Congress 2024 のための特別予算を編成し四国支部が関係する WIE、HSF (Hiroshima Shikoku Fukuoka) YP、及び SB から計 8 名を派遣した。Support letter を

発行した平賀源内記念館(香川県さぬき市)のエレキテルが IEEE Milestone に認定された。学生会員増強に向けた取り組みとして、令和 6 年度電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会において IEEE を含む主催 8 学会の会員学生及び非会員の学生が一堂に会した交流会を企画・実施し、108 名の学生が参加した。アンケートから好評であったことがわかり、2025 年も引き続き非会員学生との交流会を実施したい。次期役員選挙については従来の方針で実施したが、総会で vTools による選挙や複数候補の必要性について説明し、次回の選挙では対応することになった。予算については雨でイベントが中止になったため、予算消化ができない部分もあった。2025 年も 2024 年同様の活動を予定している。

(※順番を変更し報告)

5-1 Chapter Operations Committee

高村 COC Chair より以下の通り報告があった。

2024 年度は JC の COC 業務である Chapter 支援費審査業務を東京支部に移管した。現在関西支部への移行準備中で 1 月から本格的に動く。Chapter 役員からの質問を kintone で受付ける「Chapter 向け質問 BOX」を 2024 年 6 月に運用開始した。2025 年度は、関西支部 Chapter 支援費審査業務のフォローアップ、東京・関西以外の他支部への審査業務の移管を検討する。Chapter 支援費はコロナ禍に増額になったが、この金額を定常化するよう、2025/1/1 付けにて規定を変更することとなった。2 種類のガイドラインも改定済みで 1/1 に発行予定。表になっているのが、2024 年の Chapter 支援費申請状況。2025 年の活動計画は予算的には例年通りで会議費、Chapter 支援費を申請したい。

6-4 Fellow Elevation Supporting Committee

高村 FESC Chair より以下の通り報告があった。

Fellow の増進をサポートする活動であるが、Fellow Committee Member に自薦他薦を依頼した。Fellow を目指す方のための Webinar を開催。2 時間の Webinar を 2021 年から継続しており、2024 年は 11 月上旬、11 月下旬に各 1 回開催した。Web ページのメンテナンスも行った。Senior 申請からサポートし、2024 年 2 月に申請され、2025 年の昇格となった例がある。アンケート結果では Webinar は非常に満足という感想や感謝の言葉や継続希望の言葉ももらった。2025 年の活動計画では、Webinar は年 2 回開催予定。JC Vice Chair は原崎さんから滝嶋さんに交代、FNC、NC のメンバーには残留頂き、新 Chair にはリエゾンとして加わってもらう予定。桑原さんが、メンバーを選ぶ立場である Fellow Nomination & Appointment Committee のメンバーになられた。杉山さんが Signal Professional Committee (Fellow を発掘する Committee) の Chair になられた。関西の村田先生も別の Fellow Search Committee Member になられた。

質疑応答では、Webinar の開催時期を 1 月にすることに関する提案があり、高村 FESC Chair

から、検討するとの回答があった。

8. 各支部 2025 年活動計画および前回理事会以降の活動報告

8-1 札幌支部

資料 (8-1)

五十嵐札幌支部 Chair より以下の通り報告があった。

札幌支部、JC、札幌支部 WIE 主催で、はこだて未来大学の角先生が企画した IEEE Idea Jam2024 を開催し、全国から 37 名の学生が集まった。企業からも多くの賛助があり、大成功となった。この活動は全国の WIE の活動として広まっていくと聞いている。2025-2026 年の体制とし、Chair を北海道大学の齊藤先生、Vice Chair を同大学の西村先生、Secretary/Treasurer を同大学の佐藤先生、Auditor を同大学野口先生、日景先生に引き受けて頂く。今年は vTools を使った選挙を実施すべく動いたが、残念ながら候補者が 1 名ずつであったため、R10 の Director の承諾をもらった。新しい役員を選出は従来通りの方法で実施した。理事会は 2 回開催。電気情報関係学会北海道支部連合大会を共催、若手・学生会員増員の活動、講演会は 6 件開催。

8-2 仙台支部

資料 (8-2)

村岡仙台支部 Chair より以下の通り報告があった。

仙台支部は理事などの交代が偶数年である。特別講演会を 12/17 に NICT の講師を迎えて開催(参加者 50 名)。今年は秋田県立大学を会場に、Student Session を開催した(発表 12 件)。12/17 開催の総会で Award を授与。Student Award 2 件、WIE Award、WIE から Outstanding Contribution Award を団体に授与している。Senior 昇格者は 7 名。今年はキャンペーンを行い、Reference のサポート支援、業績のありそうな方々にお声がけした。また、Reference が 2 件以下の方々には支部役員が積極的にサポートした。2 件の LMAG 講演会を開催。WIE 1 件のセッションを開催し、参加者は 23 名。YP は SB との交流会も開催。新しい Fellow 昇格者がいないため、総会の講演会を調整中。特別講演会は企画準備中。HTC2025 に協賛の声がけをもらったため、引き続き準備に携わる。Student Session として英語のセッションを会津大学で開催予定。その際、優秀な論文発表をされた学生に Award を授与する。

8-3 信越支部

資料 (8-3)

湯川信越支部 Chair より以下の通り報告があった。

行事が下半期に集中している。役員会は 12/21 が 4 回目。講演会・講習会を電子情報通信学会など、電気学会と共催した。学生発表者に Award を授与している。Kawamoto 先生が Chair で中心となり、WIE は信越・東京と合同で多くの活動をしている。SYWL は SB から 3 名、Kawamoto 先生と私(湯川)が参加した。2024 年 R10 Outstanding Small Section Award を受賞できたが、「申請すること」の重要性がわかった。vTools を使用して選挙を行ったが、信越支部では兼任者もいたため、人選からはじめた。来年の活動計画は基本的には今年の活

動を踏襲する。

(※順番を変更し報告)

8-5 名古屋支部

資料 (8-5)

佐藤名古屋支部 Chair より以下の通り報告があった。

名古屋支部初めての試みであった、R10 Robotics Competition 2024 予選会を開催した。参加した5チームのうち、2チームを R10 Robotics Competition に推薦し、SYWL の会場で開催された本選まで進み、ニトロチームが2位を獲得したことは学生のモチベーションアップになった。2022年に申請した Toyota Prius が Milestone に承認され、授賞式が開催された。贈呈式にはトヨタ自動車元会長であり Prius 開発指揮をとられた内山田氏にも参列頂いた。役員選挙は vTools に従って行ったが、対応が大変だった。参考までに役員選挙実施スケジュールを記した。R10 Director の二段階の承認が必要であることは規定にある。その他の主催イベントとしては、電気・情報関係学会東海支部連合大会、電気・情報関係学会北陸支部連合大会などを開催した。協賛・後援、Society Chapter、Affinity Group 関連行事は16件(記載は15件)開催。2025年は例年通りの活動を予定。

質疑応答では、予算について別途 Treasurer に申請があったものについてコメントがあり、佐藤名古屋支部 Chair が追加の資料を提出し、樋口 Treasurer が別途内容を確認し承認するとの回答があった。

8-6 関西支部

資料 (8-6)

梶川関西支部 Chair より以下の通り報告があった。

Milestone は11月中旬に島津製作所の質量分析計の贈呈式を開催。今年は村田製作所と合わせて、2件の Milestone 贈呈式があった。12/25に今年最後の理事会開催予定。vTools を使用して。役員4役、全ての常設委員会の役員選挙を行った。手続きは名古屋支部と同様。支部主催の講演会、関西支部では特に Affinity Group が大変活発に活動している。LMAG ではシンギュラリティ講演会を開催。YP、SB も活発に活動している。2025年は今年の活動実績に基づき、計画している。Milestone では古野電機の魚群探知機が受賞を予定されている。

8-8 広島支部

資料 (8-8)

増田広島支部 Chair により以下の通り報告があった。

2024年に注力したのは、IEEE 広島支部学生シンポジウム (HISS: Hiroshima section Student Symposium)。支部創設以来継続しており、今回で26回目になる。実行委員会の支援、一部の学生の学会発表支援、予算管理サポートなどを行っている。引継ぎや収支のやりくり、外部との交渉、実行委員の負担改善に注力する。また、HISSの連絡会を創設した。HISSを通じて、学生会員の獲得にも成功しており、Region 10 Best Membership Retention Medium Section

Award を受賞した。2025 年は、新規役員・理事（2025～2026 年）体制のもと、引き続き、HISS の活性化・拡充、関連学会開催講演会や研究会等との協賛・後援活動の活性化などに取り組む予定である。理事会に関しては、1 回増やし、1 月に第 1 回目を開催した。学生会員支援制度は昨年倍の件数の支援申請を審議、承認した。2025 年の予算については、HISS 関連の支部からの支援を計上している。役員選挙は vTools を使用し、信任投票で四役を決定した。

8-9 福岡支部

資料 (8-9)

早見福岡支部 Chair より以下の通り報告があった。

LMAG の発足に関連したイベント等を開催した。第 77 回電気・情報関係学会九州支部連合大会があり、5 年に一度の当番で主催した。LMAG の設立に伴い、はじめての総会を開催した。Senior 昇格、学生支援は例年通りの活動。SYWL に 3 名の予定を、2 名を派遣。9 月には設立記念講演会を開催し、津田先生に講演頂いた。YP 関連では、九州大学 SB が発足し、順調に活動している。支部役員選挙は vTools 使って行った。通知メールが英語であったことで外国人の候補者が上がったが、Petition 等について誤解等の混乱があった。

審議の結果、各支部の活動・予算は承認された。

9. 2025 年 Japan Council 活動計画 (審議)

資料 (9)

10. 2025 年 Japan Council 予算 (審議)

資料 (10)

奥村 Secretary より、各委員の活動計画については説明されているので省く旨の説明があった。予算については、樋口 Treasurer から以下の通り報告があった。

収入は 11 月に開催した LRSC 会議で \$1=140 円としてレートを決め、2025 年の予算を立てることを決めた。支出は各支部から上がってきた予算を積み上げたもの。COC は記入ミスで訂正する。2025 年に関西で開催予定の IEW イベント予算も計上した。また、東京支部から説明があった、VICS へのスポンサー費は予備費から支出予定。収支は赤字になる。繰越金があるため、積極的に活動してほしい。毎年の傾向で支出が予算まで伸びきらないので、繰越金は予算ほど減らない可能性もある。

質疑応答では、2025 年の活動と予算を審議され、訂正を前提に承認された。

(※順番を変更し報告)

5-3 Awards Committee

資料 (5-3)

日高 AC Vice Chair より以下の通り報告があった。

IEEE AC は IEEE Level Award の表彰を行う Section。その貢献度について AC の一般的な認識度が低く活用される機会も少ないと反省している。Fellow Committee 在籍の経験から結果は Nomination の書き方に依存するところがあるため、識者の方々と相談しながらアドバイスを

を頂き、この委員会の存在価値をあげていくことを今後の活動計画とする。

11 その他

(※11-1 VICS2025 関連は JC でスポンサーをするかの審議についての説明であったため、ロゴの件の際に審議と同時に審議され、承認されたのでここでの報告は省略された)

11-2. SYWL2024 報告 (一部審議)

資料 (11-2)

原崎 SYWL2024 実行委員長より以下の通り報告があった。

8/29-9/1、オリンピックセンターで R10 SYWL を開催。台風による影響や、ビザを巡るトラブル、資金繰りの理由などがあり、400 名以上のエントリーがあったが、330 名の参加となった。SB の Leadership Training Workshop や東京支部の IEW、R10 Robotics Competition など複数のイベントと共催だったこともあり、参加者が増えた。各支部からは多数の参加者の動員やお酒の供給もいただき、多大な協力に感謝。会計報告では、東京観光財団や観光庁の助成金を得られたため充実した資金で開催できた。助成金は清算後に入金されるため、キャッシュフロー的には赤字となっている。資料が完成したら観光庁の助成金が 1 月末には入金される。東京観光財団の方は資料修正中。1 月末には入金予定。8 月に JC 理事会にてメール審議で資金の貸与をお願いし、12 月末日には返却する、という内容で送っていたが、清算が間に合わず、1 月もしくは 2 月に返却する予定。審議事項としては、貸与期間を 2 か月ほど伸ばしてほしい。

審議では、2 月末までに返済されれば問題ないとのコメントがあり、承認された。

11-3. IEW2024 報告

資料 (11-3)

奥村 Secretary より以下の通り報告があった。

IEW の報告は次の関西支部への移行の依頼が中心。すでにその部分は報告済なので、詳細な内容は資料を参考にしてほしい。

11-4. R10/11 分割後の課題について

資料 (11-4)

橋本 R10 Director Elect より以下の通り報告があった。

2028 年に R10 のアライメントが計画されている。R10 の現状の女性会員数は 25% ぐらいとなる。Graduate が 15%、Undergraduate が 38%。国別ではインド、中国、日本、韓国の順番。インドは Student が 45% と突出している。2020 年時点での Voting Member の数で R10 と R11 の分け方が決まった。北は Student が少なく、南は多い。WIE では北アジアは 300 人ぐらいから 455 人に増加している。YP も半分ぐらいが R10 のメンバー。2025~2026 年に私が Director になり、お金や Bylaws を整備していく。選挙ではインド人の Sameer 氏が当選し 2027 年の R10 Director、分割後の 2028 年の R10 Director となる。2025 年には

R11 Director Elect を決める選挙がある。2026 年には 2027～2028 年の R10 Direct Elect を決める選挙がある。まだ日本人は出られない。今後 2 年間予算配分などを行っていくので、ご支援をお願いしたい。

11-5 次期理事会への引継事項（案）

資料（11-5）

奥村 Secretary より以下の通り報告があった。

詳細は資料を参照していただくとして、特に IEEE 本部との連携、分割後の課題に対する対応、東京で開催予定の VICS でのスポンサーについて（先ほど承認された）役員選挙制度の見直し（Bylaws に即した選挙制後への移行）。LRSC 報告にあったが、会員は増えているが、各委員会を見ると課題はあるので、その点について宮永 Chair より以下の通り補足説明があった。

この 2 年間ですべての委員会で会員が増加している。WIE も YP も 20%程度の増加をしているが、WIE の学生は極端に少ない。今後も SB の活性化や学生の勧誘、YP のリテンションによる会員継続、WIE のメンバー増加が緊急の課題となっている。